



生徒指導の機能を生かした「わかる授業」の実践のために！

～子どもの“気持ち”を大切にする授業のすすめ～

日々の授業の中で子供たちの意欲を育む授業づくりを進めることは生徒指導の面からも大切です。若い先生方のための広報紙「南房総の風」の最終号にあたり、生徒指導の機能を生かした「わかる授業」の実践について紹介します。

【生徒指導の三機能】 ※生徒指導＝自己指導能力を育成すること

①自己決定の場を与える ②自己存在感を与える ③共感的人間関係を育成する

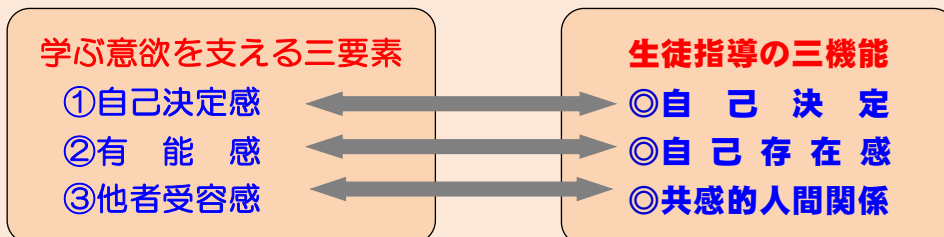


生徒指導の機能を生かした「わかる授業」づくりの実践 Q & A

Q 1 : なぜ生徒指導の機能を授業に生かすのですか？

A 1 : 生徒指導の機能は、子供の「学ぶ意欲」を育てることにつながるからです。

【学ぶ意欲を支える三要素と生徒指導の三機能の関係】



※学ぶ意欲を支える三要素：桜井茂男（平成 9 年）『学習意欲の心理学 自ら学ぶ子どもを育てる』より

自己決定の場を与える

子供が自分で考え、判断して、決めて実行できる場面を意図的に設定します。このことが、子供の「自分のことは主体的に自分で決めて実行しているんだ。」という気持ち（自己決定感）を育てることにつながります。

自己存在感を与える

一人一人をかけがえのない存在として捉え、その個別性や独自性を大切にします。このことが、子供の「やればできるんだ。」という気持ち（有能感）を育てることにつながります。

共感的人間関係を育成する

子供をありのままに受け止めます。このことが、子供の「自分は周りの人から受け入れられているんだ。」という気持ち（他者受容感）を育てることにつながります。

Q2 : 生徒指導の機能を授業のなかで具体的にどのように生かせばよいのですか？
A2 : 「考える場」「表現する場」「認める場」などを意図的に設定し、子供の活動を多くします。また、子供の気持ちに配慮した支援を多くします。
以下の「授業に生徒指導の機能を生かす「手立て」」を御参照ください。

授業に生徒指導の機能を生かす「手立て」

| 機能 | No. | 視点（・）と具体的な手立て（□） |
|--------------|-----|--|
| 自己決定の場を与える | 1 | ・自己決定のための情報提供 □考える視点や方法、調べ方などについて情報を与える。 |
| | 2 | ・自己決定に向けた活動場面づくり □気付いたことや考えたことをノートに書かせるなど、発表や意見交換の前に、調べたり、考えたりする時間を確保する。 |
| | 3 | ・自己決定の場面設定と環境づくり □ペアやグループ、学級のなかで、自分の考えを発表する場面を設定する。 |
| 自己存在感を与える | 4 | ・存在感を育む雰囲気づくり（手本） □「よく考えてるね」「がんばってるね」等の、承認や賞賛、励ましを積極的に行う。 |
| | 5 | ・個別に存在感を育む場面づくり □一人一人の良いところを具体的に評価しながら、計画的な机間指導を行う。 |
| | 6 | ・仲間と存在感を感じ合えることができる場づくり □ペアやグループ活動等を取入れ、協力して活動するなかで相互の交流を図る。 |
| 共感的人間関係を育成する | 7 | ・教師の共感する姿勢づくり（手本） □児童生徒の発表に対して、うなずきや相づちで応える。（たどたどしい発言でも待つ・間違っただけでも見守り大切にする） |
| | 8 | ・仲間との共感的関係を育む場づくり □相互評価など、お互いの良さを認め合う活動を取り入れる。 |
| | 9 | ・共感的関係を確認し安心できる雰囲気づくり □友達の発表に対して、発表者の方を向いて聴かせたり、拍手をしたりするような雰囲気づくりを行う。 |

◎上記詳細は、「生徒指導だより」として発行し、事務所HPにもアップしますのでご覧ください。



お知らせ

文部科学省指定発達障害理解推進セミナー「燦シャイン」について

- 1 日時 平成26年11月21日（金） 9：30～
 - 2 場所 いすみ市立大原小学校
 - 3 内容 ユニバーサルデザイン授業公開，研究発表，パネルディスカッション
- ※ユニバーサルデザイン授業とは、授業づくりに特別支援教育の視点を加味し、障害の有無にかかわらず、全ての児童生徒にとって「わかりやすい」授業